



皇國海柳新書



五

13
1300
5



墨田川梅柳新書卷之五〇

東都



曲亭主人著

本清

光政平尾郷より妻子を殺す

山田三郎光政ハ松井源五が夥の兵小送られ斑女前を伴ひく。平尾の心小立ゆ
 小既よ内方ちりりありし。源五のこより引られ。郷の出ゆく。遠巻く。こ
 ちろこの合圖をまう。又粟津六郎勝久ハ甲夜小光政とて小宿より出粟鴨の
 ころゆたぐいまぐ帰らむ。こも斑女松稚の往方とまらんがぬあり。光政ハ小
 裡の密子を張く。門より入る。こも漏小庭門ある片折戸を押ひく。斑女前を
 誘ひまわす。月影もど暗れ。樹立の間を繞る。何思ひん走らる。
 忽ち斑女前小拭き。こノ下緒を抜出。こも矢場小縛んとせれ。斑女
 ハ阿呀と叫ん。こも声く。こも拂て走り退んと。あふ小往の袖を松の下枝より

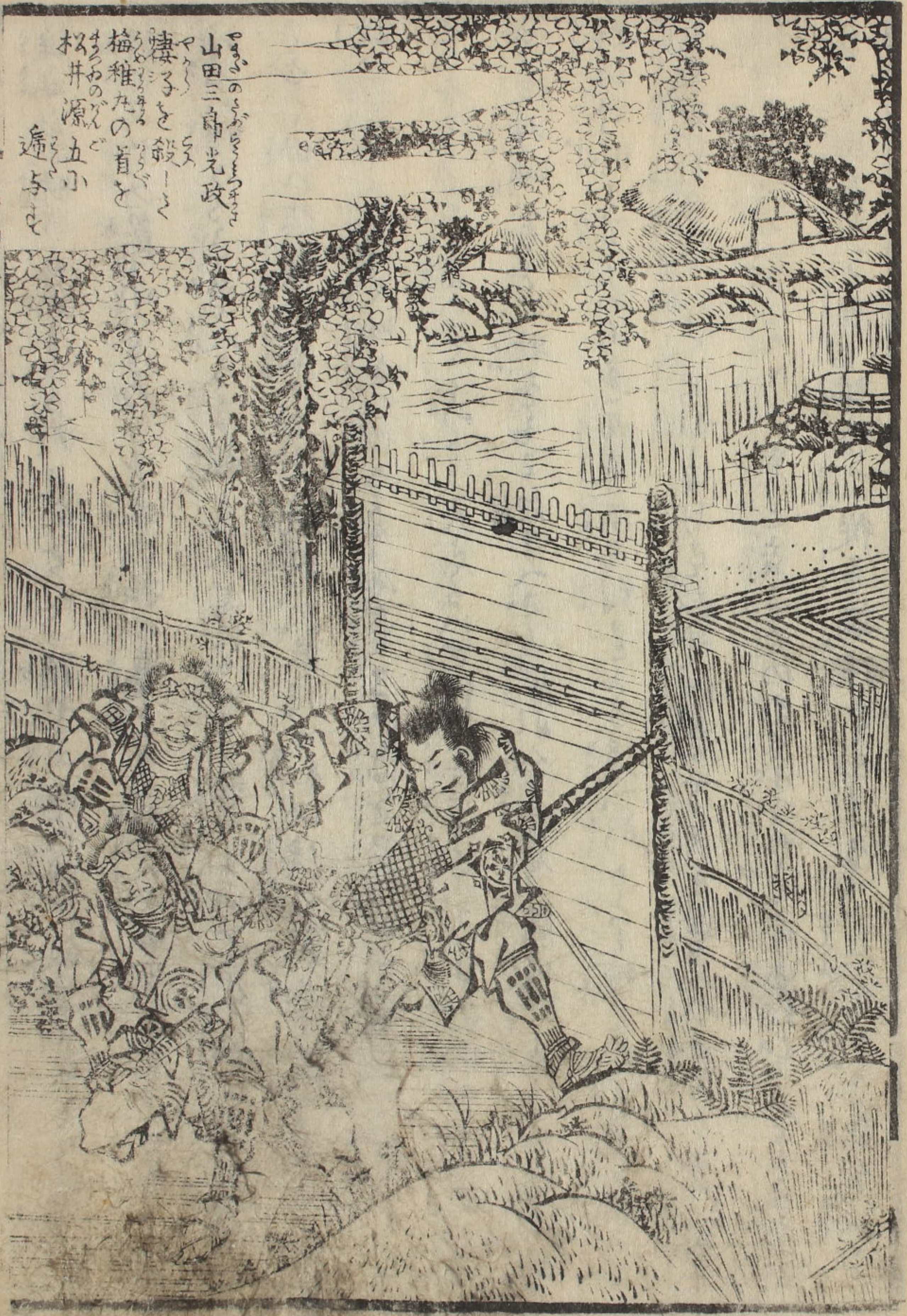
毎一頁

とあつと袖いさうくと離れつ。懐の鏡を摸地とせしめく轉輾内を起しもまむ
 森々と縛りく。松小林足と繫糸苗鏡と片袖を拾ひとらへ懐小挾つ。梅稚丸の
 まん別室のくく竊行先政が胸中更小志るべくべ。亦先政が女児玉柳も
 梅稚丸も亦未ぬひつるさむりやう。獨小懸想しつ。とひ絶る隙へのわとこ
 すかふ父の主君もくすもさむ。ひさしひも出さむ。やめく水坂堰うね。人の
 猿及まは月の都人よゆらぐと。梅稚もいらとやく。式も小曉得くゆられよおほ
 くの。時昔の夜もむやく。房門小音づれぬひひ。小ゆやく小守人の驚がれの本意
 ちく帰しまわらぐと。今宵の父の山田も粟津六郎も家小ゆられ。玉柳甲夜
 ころ用意しつ。どの音づれをたす。寝しとの鐘も更とやく。遺残しつ。雨戸の
 隙より春の月圓もく。入も。外面小立在人のゆらぐ。玉柳の障子もつる。影火えて。
 彼君ありとそなえとく。と起す。折もゆも。山田三郎は足成跪息を吞て。

梅稚と跟来し。遺戸の外小餘ひ居し。さあさうとく玉柳の音をせしめと
 く諸をうけ。障子をせしめ引あつ。梅稚も入りぬ。先政内と跳
 懸て。梅稚を取く押。一カと刺し。さるは反覆さん。ゆめ版敷
 回刺し。やうやうりあひ。玉柳もさる。浅くも悲し。と。すも
 以起する。梅稚君のゆめぬ。母もくと叫び泣声。限も小ゆひまむ。鳥崎
 慌く走り。あつ見ぬ。夫先政は梅稚丸を刺。苗く既小首を切んとす。
 吐嗟と驚えつ。とあつ。さるは婦の力も。さひ癡く。一生懸命袖小黄緑米
 小啖著。うらうら。棄ひ。さる。カ尖らひ。鳥崎が乳のく。掻切ら。阿呀
 と叫びく。轉輾毒の若痛をのり。と。先政のゆめひ中。刀を引。抜。血塗
 とあつ。梅稚の頭髪と咽く。引起と。玉柳もくとさひ。と。父の及小。袖
 ぬけく。握り。胸のゆらぐ。衝と。作も若。形勢小。父も。腕。難

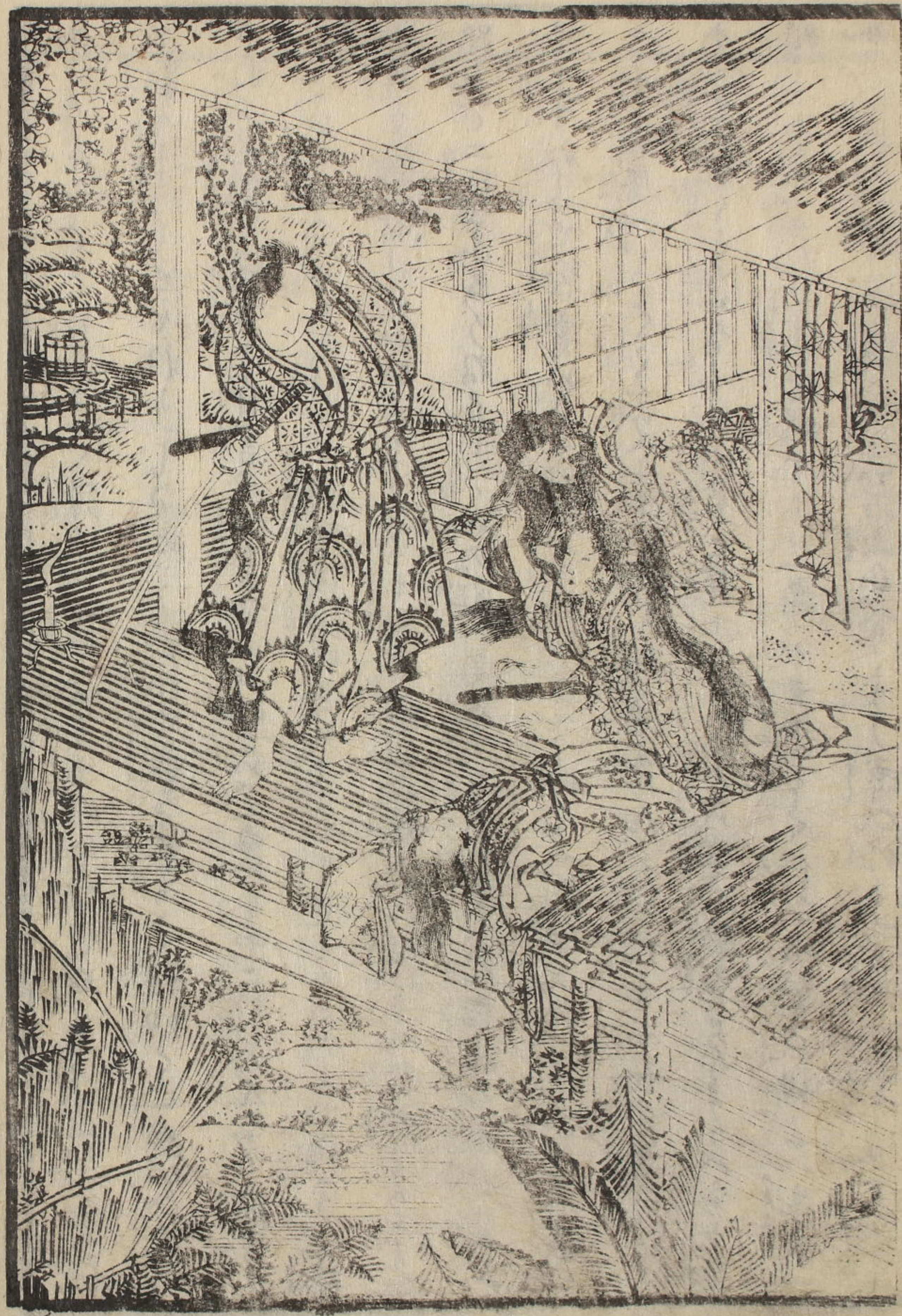
の放しく權と中と妻と女児の漬る鮮血引てて左右小波奇こ嶋崎吻と
 とも息の下小夫と恨しげらら膽望喃光政どのたえ恩のあるれぬん
 獸もあらずいづるらうりんもひとくれと利欲小惑ひく主君を殺も悪人
 とらひひくもとの年未るふ昂とく脊骨牙の朽とく。拵むくハ假
 初小近江の契仇とあり助るまの命ありと斑女御前の憐れは一密
 小あの一畏のうらな花を散くと教諭の秋のるがる小聖の書も勝をり
 とく朝暮小つひも出寝覚もともひあ。夜の衣の袂くとも洛のくを後
 方小せとれしをまくと宣ひくも。さる虚言とくめりくるる僕えまは去
 年小今年の母もを老ぬぬ。さる兄もりふやゆん。身の過より君と親
 小遠離る不忠不孝を贖ふべにひく。息々きたもふふしれ。さる保
 小を負ぬつ。梅雅君の塊緒のいとあはのつあひのれど妻や女児が面

あら死とくくひくまぐ諫を露をうりもともひまくと埋ともはあむん限
 足動りまわらせ。それもももさるい亡骸を葬り。腹切く亡ぬひあ
 さねと玉柳が健気小自害志けるをわれとらぬらとや。さるじんありはま
 とく。丸に説つくとは。玉柳も涙雨のどく。まをるりのとおぼさん梅
 稚君を懸想しく。いひより。さるも勅小過世小縁う。締る。彼君うらう
 路もや二夜ふまうぬをど人めの園の園守小。おむけもは相語と昨夜のあり
 歸しまわらせ。今宵いれまぐ。も枕とさる。うらひ小曉の鷄逆くれとさる
 さる。さる房門うらう。さる。又小。あはく。絨をぬんと。一夜を千夜とあり。ど
 あ。ま。あ。く。も。あ。ま。目小君と冥土のわくべく。生く。歎をせんよう。あはく
 嬉しう。べ。た。れ。ど。主を絨せ。三郎が女児と。伴ひぬ。ど。親。あ。え。未。一
 世と。く。ひ。と。り。や。躰。ん。死。の。山。小。今。より。惑。ひ。け。る。妻。と。殺。し。子。と。殺。し



山田三郎光政
懐子と殺し
梅雅丸の首を
松井源五小
通と

海印所書



神祇書卷之五

三

誰為欲小耽りぬ。よろしめ人のさつ路や主成内海の故ふ小異さるぬ。終小又竹の節小つらぬ。木の枝小鼻らる。悪人の女兒とらしとる。後
 の名ハ惜うらむ。悪人さる。親とらしせんが。いと悲しとらし声の細うもさる。よ
 そゆ。母ハ悲歎小堪うらむ。肢體ハさほ。紅の涙小鮮血もさる。一り光
 政ハつぐとげく。冷笑ハゆさる。や。妻子のなとさる。いとせふとさる。か
 せをさる。あま。苗さる。つらぬ。いと世の常言小今も小親の心とさる。さ
 むも。鳴崎ハちとて物をもちたす。さる。今夜厚澤の野末さる。斑女前
 野の野卧小若らる。母春雨も射さる。後ハゆさる。彼を伴ひくさる。
 小蓮村のころさる。さる。さる。松井源五が子夫と連く。八方よりさる。圍と
 梅稚九ハ伊の家小うら。置と告る。りのあふさる。今ゆたむ。さる。さる。
 さる。斑女前と通。梅稚主従を搦捕く。出さる。一旦舎藏。罪を放。よ

以小吹琴せんとの。とのとたつら。さる。さる。過を言。追
 放。今とのよりさる。勤當を許さん。との故主の志との。のさる。さ
 ら。斑女梅稚と源五小通。との係累ハ脱とさる。却世小出。便ともさる。さ
 必兼。さる。斑女前を預ぬ。餅とさる。粟津六郎小ハ放。主従を
 生拘。さる。又さる。のさる。首と削。進らると諾さる。後小源五ハ
 さる。門方より引さる。れ。郷の出口を固さる。これハ又庭門より入。り。裡の容
 成張。小粟津六郎ハ。歸ら。さる。者奴が歸ら。さる。向小とさる。顔小
 いさ。れと。勸小生拘らんと。母小阻ら。後。六郎が。さる。か
 悔ともひある。と。是彼を慮り。さる。斑女前と庭の木蔭。さる。刺殺。
 梅稚が。小釘。を。跟末。さる。一口小。さる。さる。母ハ。物小。さる。死ね。さ
 さる。今小。及。止。げ。ら。と。ほ。げ。は。は。さる。身。を。起。鳴。崎。が。乳。の。下。さる。

ざうりろく。園子の外へ跳退ども。多は疑の鮮ざうりたり。そのとた山田三郎ハ斑女
 梅稚を中々女小請。又粟津六郎を招入る。その小をトめく千行の候禁す
 とあつらひ。且くくやとや。六郎のいれもく。斑女小前梅稚君也。先政が若
 肉の計の知し召さるべし。時もあれ今宵小至る。梅稚君も家小中へ入る
 松井源五小あられ刺をれ。厚澤野より斑女前を伴まのり。金めく
 源五が黨小予矢とめく。園を一旦その鏃を避ん為小彼がいふ所より従ひ
 故ちく斑女前を伴ひまのり。家小歸るといひ。れど奸智小園さる源五を
 小のり。同謀者とり。事の為体を張望さる。やと母のいさうり。畏れど
 斑女小前をい。縛あり。木の下小繫留潜り。鳩崎をほびく。落し
 わく。とへ。謀を相語れ。梅稚君志のひちり。玉柳が卧房へ。とあつらひ。と
 んをひ。と。別室の方とえく。彼知くも人殺。と。く。幽竊る。

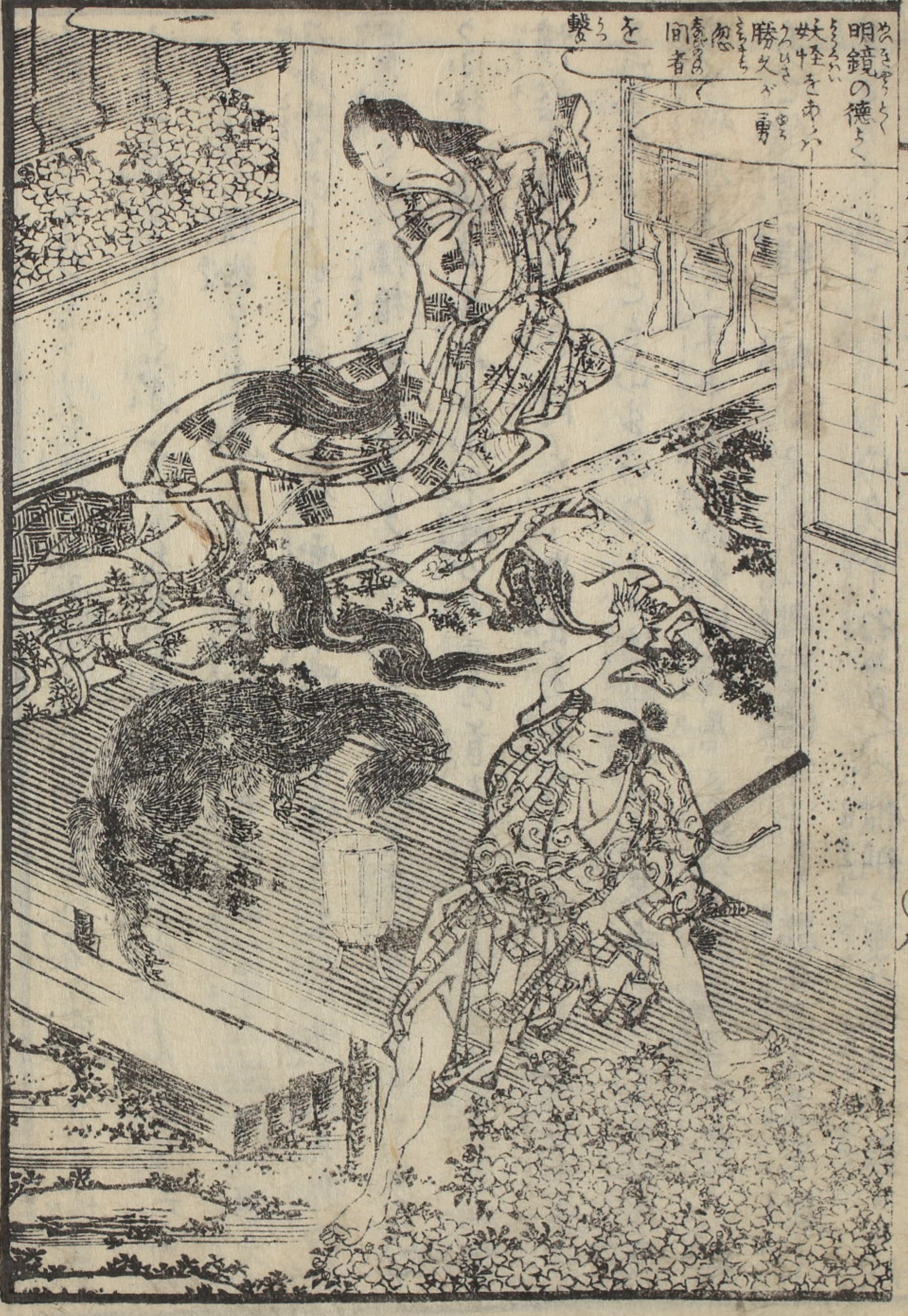
これも又梅稚君あり。その小ま。怪。斑女小前のり。と。鏡を照
 月影小彼と是とと熟視。女鬼。の。小。の。真の梅稚丸あり
 全く獸の形。う。れ。の。彼。の。妖怪。老精人小。と。死
 遠も志。本形と露。と。の。素。この妖怪の首と削。と。
 源五を欺。今宵の危窟を脱。と。斑女前を救ひ奉。小討
 深く思。及。只鳩崎が身を殺。と。め。り。ま
 小前を別室小誘。小母子の對面と
 只顧叫び泣く。後小鳩崎。と。来。偽り悲。と。諫。め。り。く
 疵を蒙。と。は。あ。と。止。と。小。燈火。と。滅。と。小。紛れ
 妻の首と妖怪の首を。と。源五小。と。小鳩崎が

首の血気もくろく。斑女の前。松の枝小判をけり引離ぬ。袖をぬき。裏に梅雅丸の首をさし。源五七もこれと。放し。疑も。遂に欺きて。歸り去ぬ。わづらひ。玉柳が親をうら。世をさうあも。又がり。取取。死をさうあも。胸をさうわく。若かり。声も。泣を絞ぬ。先政の。泣小勝。哀れ。斑女前。涙を絞ぬ。先政の。鳥崎の。仕の。一旦の恩を感。命も。政が妻。世に幸。死に。一日小母を喪。妻。先。君を救。忠臣。梅雅丸も諸。法師と。死の。

人々の救。影の。不覚。粟津六郎の。黙然。居。今宵。捕人の。梅雅君の。溝を。源五。今縁故を。忠臣を。今。日梅雅君。来ぬ。戸田の。年老。本。讀居。これ。彼。里の女子の。朱を。引。今。彼。里の女子の。



梅柳新書卷之五



明鏡の徳とく
 妖をあらわす
 勝文が勇
 忽ち
 同者
 襲うを

梅柳新書卷之五

八

えうと。その名を記し。既ふるの成る火。識と附らるるのうとあはし。
彼薄今小のりやと。梅稚丸懐より。薄をとり。知く。用たえた
うめ小果。くその中ほ。平尾の玉柳と。写し。い。高紙が引
む。を。を。駭然と。わ。わ。頃日玉柳。梅稚君小
懸想。を。彼。知く。その人小。女児が。房より。い。今宵
火急の難義小あり。終小玉柳の。狐の。為小。け。を。光政
い。く。撃と。一。栗津六郎珠更小。を。
掉。賞。嘆。と。山田三郎。彼明鏡を。と。ぬ。び。妖怪の
軀を。梅稚丸と。忽。年老。と。血。塗。ぬ。ぬ。
う。玉柳。は。断。を。一。死。を。か。り。が。阿。と。叫。び。頭を
握。今。一。件。の。物。が。一。夜。夢。の。ど。く。小。す。り。を。も。め。か。が。の。幸。を。志

る。これ父の慈悲。を。は。た。せ。の。う。う。親を。罵。り。不孝
の。罪。の。う。う。と。や。の。身。を。け。と。も。狐。を。房。に。誘。引。し。女子。と。人。小
の。を。と。も。恥。し。今。死。を。と。も。は。れ。父。の。顔。の。と。え。ぬ。
う。は。軀。の。心。を。と。も。の。り。と。た。れ。ど。は。ま。首。の。仇。の。小。遍。か。
今。殺。小。死。顔。も。わ。を。を。梅。稚。君。う。う。後。小
一。遍。の。回。向。を。と。い。ひ。け。と。率。然。と。息。絶。り。悲。歎。小。時。刻。に。後。り
と。曉。ち。く。う。栗。津。六。郎。様。つ。小。と。出。く。星。の。光。を。と。ら。瞻。望。
天。も。明。雁。首。と。と。源。五。郎。と。来。と。ん。誘。ぬ。と。い。は。し
つ。と。打。も。裏。劍。の。ね。ひ。と。ど。松。枝。より。撞。と。墮。る。癖。者。の。松。井
源。と。の。れ。ち。り。光。政。走。り。り。首。を。と。り。刀。の。鮮。血。を。押。拭
く。ま。ぐ。り。小。鞆。お。さ。め。勝。久。が。眼。力。手。煉。の。勝。久。を。稱。く。己。と。栗。津。六。郎

小栗津六郎の路五七町追ひたか。忽ち彼荒男と云ふ一は小栗小
 鳥燦く。木の蔭叢の中。とゞく物のわくらふたぬらちもく索ゆる
 小終小逢も。斑女前のふも又ふゆとちれぬ。かぐ鶯の路入るもらう遺
 ぬらうとええ。松梅の鏡草の細の上よゆ。その入りゆき。いふとま
 ましく勝。きく。あまのすれ。只歌の。あまの。いれ。う。鈍。ま。く。
 山田三郎がうとのを想。妻子を殺。救ひまじ。主君を。忽ち
 棄。竹の面目のあふた。己。い。と。引。既小腹を切
 らんと。浩。美。旅客之行樹蔭より走。出。勝。父。過。と
 と。弱冠の。松稚丸。の。栗津六郎。
 或は驚た。或は救ひ。且く死と止り。まづ斑女梅稚の。山田三郎。鳴崎。玉柳。ホ。ト
 ぬ。始。筒。様。の。此。の。形。勢。あ。れ。ど。い。も

忠義を全むるとあつた。と。い。え。今。小。及。の。お。も。さ。う。と。思。ひ。た。し。類
 を。洋。飲。か。ら。い。も。う。小。中。と。言。語。も。は。身。の。過。と。面。た。れ。と。お。ま。を。こ
 くと。小。松。稚。ゆ。と。う。愁。ひ。光。政。一。家。の。忠。義。小。と。う。救。ひ。は。る。母。と。母。の
 ぬらび。虎。穴。小。陷。と。天。ち。命。う。と。ま。い。と。この。小。止。ん。や。の。根。索。と。救。ひ
 べ。の。救。ひ。の。救。ひ。べ。う。ら。ど。い。仇。を。撃。く。後。小。と。い。は。う。も。ん。と。と。夫。夫。の。志。る。あ
 り。の。り。の。原。比。敵。の。辻。と。源。五。が。徒。小。終。と。う。り。成。鳴。崎。が。兄。赤。塚。の。軍。介。と。り。か
 り。小。救。も。母。と。梅。稚。の。行。方。と。ち。ん。小。且。く。義。濃。尾。張。の。間。小。ま。ま。の。び。と。や
 り。と。小。来。れ。と。物。が。う。と。軍。介。が。義。あ。つ。と。勇。を。稱。讃。し。應。こ。れ。を。引。あ
 へ。栗。津。六。郎。の。只。願。小。嘆。賞。の。見。や。と。彼。女。弟。あ。り。是。小。辺。兄。弟。世。小。稀
 ち。義。士。烈。女。と。う。今。情。由。を。ま。く。汗。顔。小。と。え。ど。と。い。れ。と。軍。介。の。聊。も。誇。を
 ち。恩。を。稟。く。恩。を。被。む。の。人。の。常。ち。り。それ。が。妹。鳴。崎。小。別。と。小。十。五。年。彼。母



義の爲り死じりとやめてさうらうと生前の對面小勝さうといひて更小歎
 のききとせど粟津六郎これ小勵さうとゆびのひかへて垢女梅推と尋
 まりせんとも後一とりたる。抑梅推を奪去する荒田の忍の惣太の件
 惣太いぬる年浴して夏と志すべし。麻羽の原哲とめり小この武藏小逃り
 隅田村の東ある漆が洲とりの処小歸れ住む。移ひまとも一殘暴さうと
 徹此の女子を畧賣たり。さうる小この日惣太へ梅推丸のつちおき小ひつらひ
 てさうさうとあひさると。真の女子ありとさうさうけさう。湯島のほさうとる跟
 末と清水を汲んとく。ひとり舊の路小多歸りんと矢庭小搔抱く。直小漆が
 洲一走去り。このと元原哲もと一十三ある女子成指知めり来さるるを一條の
 棒と取て只顧罵り懲と処一惣太の慌く歸り来り。門さうと梅推と破
 と投入つとこの家の真中小さうとさうさう。原哲小對ひさともこの幸さる日

ちり。さうさう。穀の金小さうさう女子とさうさうと奪ひ来り。さうさう。男のめり
 妖さうさう。り。初童さうさう小徴。和尚のつ。價廉とも遣るべし。願哲さ
 う。さうさう。西の堤さうさう。この女童只一人をひさう。這奴さうさう。如狎さうさう。や。勤
 まり。走り去らんとさうさう。憎さうさう。おび又か。さうさう。後てさうさう。ねり今さう
 湊の便ゆ定めく。さうさう。相さうさう。め。さうさう。と。談合さうさう。べ。兄貴さうさう。と。奪
 らさうさう。化骨折らさうさう。め。さうさう。い。も。果さうさう。と。遠さうさう。く。出さうさう。り。さう。惣太のさうさう。と
 左右をさうさう。と。一。女童さうさう。さうさう。さうさう。は。と。羽さうさう。の。上。家小給事さうさう。と。白。赤。衣
 三つも四つも被さうさう。と。又。男童の火を焚水取汲。柴火推。門を掃け。汝何の家小
 り女の衣を被て。お。中。一。死。拾。さうさう。と。これ。頃。日。さうさう。と。あり。尙。と。の。人。さうさう。ん
 ころ。さうさう。死。獲。さうさう。縁。故。の。緩。小。同。べ。と。終。日。走。く。と。く。疲。り。さうさう。と。の。
 汝。さうさう。後。さうさう。小。来。く。野。上。り。路。さうさう。と。お。り。捺。め。と。さうさう。と。一。睡。せ。と。さうさう。と。ひ

し母持病小積七のり。又よのゆらど。さうりふ別れ。さひほりく丸めら。
まほそまきくもさく。世成うく身とさうも。湖瀬小投ぬりどや。あひ
ばつと悲しく。声成惜ど泣小り。梅稚丸のえりも。あひ憐れ
やうし。くひ小女子。その鬼の栖さう。虚々居るが息吐小。活地獄小墮れ
く。遂小一生と恨つぐ。彼ホッ帰り未だ。向小逃去りく。母も途又とも
索よ。それも又虜せく。その小のふれりのあし。ど誘とく帯と林と締じ
門の戸引ゆんと。あふ小。外面より鎖られ。え用くぐも中。背門も
又くくあせ。正小是網の奥。如の鳥小異あし。ど。さ何とせんと。躊躇
ぬひ。が。ゆり。く。紙窓の格も。二ッ破れ。さうあり。ど。さう。こと。と。ひ。く。さう
女童を抱揚め。小今。さ。小物か。さう。く。覺く。胸うら。騷に女童のさ。は
足さ。跋ま。ぶ。あ。を。ど。か。く。く。扶出。右よ。左よ。と。指。示。あ。ふ。小。と。ま。ん。え。む

あつさ。く。走。ゆ。け。續。く。溜。せ。ん。と。あ。お。し。も。門。の。戸。を。さ。り。と。引。ゆ。り。り
驚。ゆ。く。え。う。う。あ。の。片。頬。一。瓢。を。投。げ。し。是。あ。く。摠。太。く。時。小。摠。太。小
哮。て。梅。稚。の。襟。上。う。咽。く。仰。さ。ふ。引。さ。か。鵬。小。似。く。眼。を。瞑。し。狼。し
似。る。声。成。高。し。その畜生。膽。太。く。も。女童。と。放。遣。う。その身。も。逃。支。度。と。と
く。こと。縦。女童。の。逃。と。も。い。う。て。洪。を。奪。ら。う。近。曾。吉。田。中。孫。稚。房。が。孩
児。松。稚。梅。稚。と。中。ん。その母。斑。女。前。と。も。小。洛。を。逃。して。奥。列。へ。赴。く。よ。し。これ
成。捕。り。の。り。野。賞。錢。と。賜。ら。ん。と。知。く。小。榜。文。を。出。し。その人と。索。る。る
い。半。打。童。細。引。さ。る。蚤。が。子。や。さ。さ。く。さ。く。さ。く。さ。く。それ。も。ど。や。う。り。洪。が。異。に
お。扮。と。さ。く。彼。松。稚。さ。く。ど。い。必。梅。稚。あ。る。と。さ。ら。さ。ら。あ。れ。い。さ。く。その。相
親。と。認。ら。ぬ。が。さ。う。腰。を。捺。く。試。ふ。その。力。と。さ。ら。全。く。平。人。の。子。り
あ。い。ど。さ。は。委。細。を。さ。ん。あ。ふ。小。酒。を。買。と。偽。り。里。小。ゆ。く。是。被。同。定。と

梅稚丸のえりも

あひ憐れ

バ、汝が年庚梅稚の骨相書、小つゆ違と。今のつ小陳むるとも、腕がく。惟
房が孩児ありとも、やぐ之梅稚丸とも、名告れ。とく、名告れと
いれたる。藤卷の桿棒を閃し、骨も推と打つるを。梅稚丸の潜脱
潜脱か、持つる小太刀を授く。とく、掛ぬひ、梅稚丸が焦燥くうら
こむ棒、うらひ肘小透り、終小太刀を授く。肩腰のきらひな
く、折る灸処小目眩、撲地と倒し、死ぬ。浩如小外面、ちちく
人の来る音も多。梅太の執掌、梅稚丸。蒲團うら、被る程、あは
む、京家の武士とあは、従者二人、小呼門と上、小半、ちちりて、梅太小
對ひ、小の赤石判官恩顧の老黨、松井源五純則あり。忍の梅太、うけ
あり。汝が家小吉田女將、惟房が孩児、梅稚丸を舍、藏と。慥小知、きれ
る。陳むるとも、彼を出さ。一旦合體の罪、汝が、駭の賞錢を賜

ふへ、とく、とく、梅太、すく、呆れ果。とく、全く梅稚を舍、藏と
う、あ、とく、鳥越の曠野、とく、甘の衣と被る、美女、年小初、あひぬ、その力、伴
いと怪、とく、引、むり、末、つ、空、擊と、いと、梅一、應、小、實、汝、出、威の
棒の灸、処、小、當、く、忍、比、小、息、終、と、け、の、梅、稚、丸、と、う、ん、致、い、と、實、檢、志、あ、
とて、被、と、ころ、蒲、團、を、引、退、と、源、五、え、と、ち、小、駭、丸、と、れ、疑、と、さ、と、あ、し、れ、梅
稚、う、ら、や、を、れ、梅、太、梅、稚、の、朝、敵、惟、房、が、子、よ、と、重、死、罪、人、と、さ、と、ち、ち、梅、小
あ、殺、と、の、理、あ、ら、ん、と、者、奴、と、ち、縛、と、と、知、と、れ、か、二、人、の、從、者、走、入、と、た、右、よ
と、繩、を、さ、り、けん、と、と、と、梅、太、の、突、除、拂、退、と、ほ、と、り、と、と、と、著、と、源、五、大、り
焦、燥、と、太、り、引、拔、と、衝、懸、と、と、梅、太、と、ち、身、と、の、ぬ、り、と、靴、を、ち、と、握、と
め、が、尖、と、り、鐙、え、と、と、得、と、と、と、と、と、と、不、雷、と、あ、と、と、と、と、と、この、刀、を
自、他、等、昂、昂、身、成、佛、と、鑄、つ、け、と、と、何、人、と、と、と、縁、故、と、と、と、と、と、と、と、

梅雅九
憐しく浅
を脱去
遂小忠の
小打



梅雅九



梅雅九

十七

七亦よべにありと叫びく。のと丁と突放じ。源五も又それと怪。この短刀も。これ洛を知らと死主君赤石判官盛景ぬ。親これ預あつ。松種梅稚ちほ虎狼心を逞しく。王命小伏るべの。たれをりり首とおぼと。洛へ上りてと仰。ま。ま。小畑又と見く怪。ひとり却怪。この惣太はす。彼赤石判官盛景と稱する人の。もこの名と仁科平九郎盛景とのいりや。と同。源五點頭。是小畑が向とく。主君の原の名。仁科平九郎と申す。此の。是とま。ま。と申す。惣太。と申す。と折笑ひ。赤石判官。は。又。家隷ちり。この無禮ちらん。と下り居。といひを。あ。源五ホ三人を撲比と蹴退。上。小。推ち。これ。龍角の。と。推。駿列喜瀬川。父の家と逐電。既小六年を控。秋の。夜。薩陀山。又。威。挑。争。時。彼。と。終。

小場と千代の磯小轉墮といふも。身と傷。小。至。と。天明。後。李。小。著。牌を。と。や。の。人の。父。心。曉。得。り。と。り。以。未。と。親。同胞。の。往。近。曾。世。の。風。声。と。す。小。龜。鞠。と。白。拍。子。後。鳥。羽。上。皇。の。龍。を。得。る。彼。父。の。威。勢。撰。政。関。白。家。も。勝。と。い。ひ。か。妹。の。名。も。又。龜。鞠。と。い。ひ。と。伴。の。龜。鞠。の。赤。石。氏。ち。と。す。後。小。も。親。胞。と。い。ひ。と。か。く。世。と。潜。る。恐。の。惣。太。が。在。処。を。い。つ。て。父。も。時。と。か。これ。梅。稚。が。首。と。か。洛。と。い。つ。て。家。裏。と。い。つ。て。上。洛。の。用。意。と。い。つ。て。説。示。と。言。語。も。更。小。は。源。五。又。冷。咲。ひ。同。小。ち。と。説。小。と。い。つ。て。實。の。松。井。源。五。と。い。つ。て。吉。田。の。家。小。因。有。仁。別。赤。塚。の。軍。介。と。い。つ。て。又。從。者。小。打。扮。と。い。つ。て。二人。の。松。稚。丸。又。入。吉。田。の。忠。臣。粟。津。六。郎。勝。久。と。い。つ。て。梅。稚。君。と。い。つ。て。小。棄。去。ら。れ。斑。前。

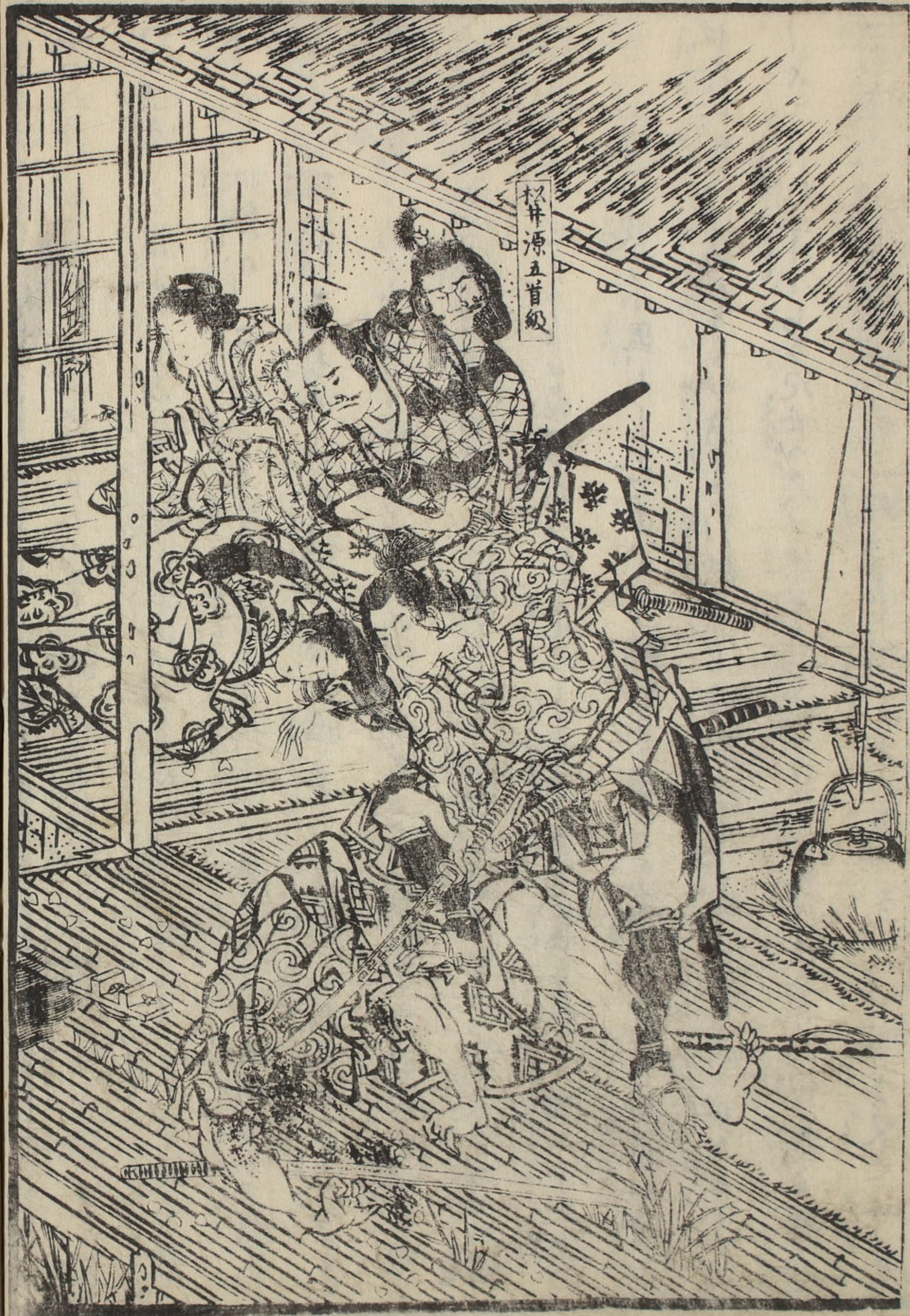
ちあつてちうちうめひいり。勝又進退究くええらる。わー。松雅君との如小ゆたあ
 ひあひ。ちも亦この君小従く。近別よりとふ未れ。勝又ぬーの物うり小うり。
 斑女前梅雅九の一五二十。雷小中ひり。ち。ち。小ゆたを索出く。梅雅君と敵
 ひまひ。とんと議さる。処小。逆臣松井源五純則。十四五人の兵士とわく。松雅
 君を追ひ来く。時小一人の老翁源五が来。路小多。草以結ひ。草以結ひ。わいて
 待とちあつて。源五が待一畑走小。追留んと。闘ひ。忽比草の畏小。跌。家棋と。う
 小轉輾を。五。倚。れを。執。取。臆。く。源五を生拘ぬ。この時松雅君が。茂。逆を。責。て
 首と。刎。件の。老。翁。が。好。意。と。し。う。り。と。ひ。ゆ。え。く。この。名。氏。以。向。ぬ。わ。老。翁。答。く。これ
 の。江。州。比。叡。の。辻。の。道。祖。神。う。り。ひ。ぬ。る。月。某。日。この。逆。賊。夥。多。の。虎。狼。を。り。は
 一。主。君。と。射。て。殺。さん。と。一。判。神。輿。を。射。り。う。く。ゆ。が。黨。を。結。く。神。罰。の
 掲。焉。と。ま。く。心。胆。梅。雅。を。棄。ひ。去。り。癖。者。の。成。景。景。が。集。子。又。心。の。摠。太。と。り。

の。ど。被。年。未。時。の。女。子。を。招。知。も。と。暴。悪。と。ん。く。け。め。た。小。り。の。う。り。家。の。漆
 か。淵。う。あ。の。の。く。ゆ。の。向。ひ。源。五。が。如。此。の。故。小。う。り。盛。景。う。り。預。得
 う。短。刀。と。り。く。彼。を。誘。つ。る。お。の。づ。う。頭。然。と。ん。個。定。業。の。神。也。救。が。じ。
 惜。へ。挿。頭。の。梅。花。向。落。十。六。年。う。り。ん。と。の。ひ。を。い。り。向。心。比。小。う。り。え。ど。う。り。ぬ。
 う。か。主。従。神。勅。の。灼。然。と。う。り。感。佩。一。思。く。ゆ。を。試。ん。た。小。源。五。が。徒。の。太。刀。衣
 裳。と。取。く。ち。れ。源。五。小。打。扮。松。雅。君。と。勝。又。わ。り。一。従。者。小。打。扮。この。短。刀。を
 り。と。誘。ひ。必。果。と。く。この。實。を。吐。り。い。づ。松。雅。君。梅。雅。九。の。仇。を。小。隨。小。殺。ぬ。と
 ち。自。他。平。等。の。短。刀。と。遍。一。す。わ。り。せ。か。く。後。ち。小。居。う。り。と。い。栗。津。六。郎。の
 腰。小。著。う。り。鞆。包。より。源。五。が。首。と。り。牛。一。刀。尖。小。つ。り。ぬ。た。く。高。く。指。一。揚。
 主。小。引。副。詰。と。く。この。と。れ。松。雅。九。の。摠。太。と。ま。く。一。睨。著。る。よ。好。賊。源。五。の
 既。小。誅。と。り。これ。今。身。の。仇。を。報。ひ。又。父。の。仇。を。盛。景。龜。鞠。を。討。んと。欲。を

松推丸一刀小穂太
 か首と打おと
 軍の立地小穂太
 を殺し梅推丸
 の仇を報ふ



松平源五首級



軍介のやもあへむ奮然と走りかゝり。只一カ小原を乾竹割小切倒せり。そのとれ母のうらうらと走りかゝり。走つたらんも夫軍介が癖者と切捨血刃引提く。まゝに且驚死且泣びおそく。ほろりちりちり。比叡の辻。ある道祖神の祭礼小。身小天狗小。廻とあひと。ゆるゆる。後小。女児浅船と。もに通夜泣あくりし。さる。それの虚言さる。實の松雅丸を伴ひて。往方さる。さりのつと。憎と。詰朝朝家より官人夥出まり。忽地家と破却。近江の住い許されぬ。悲しく便さる。身小環會人。為小浅舟。彼れを索呻吟。浅船逃を来。刺りこの渡。浅船を棄れ。悲小悲死。男がびり。女児。女児。廻と走去を。追ひつ。小来。浅船。又梅雅の死。あつる。驚死。悲と。嚮小。脱。

ハ輒く逃まぬ。いんといふ。あつる。殺されぬ。あつる。あつる。痛と。後。りり。軍介。松雅。彼。僕。妻。浮草。女児。浅船。梅雅。君。扶。脱。軍介。身。敢。幸。梅雅。君。命。進。面。松雅。軍介。妻。伏。それを。故。小。妻。子。女。顧。又。軍。女。児。浅。船。を。脱。身。殺。小。至。喜。小。報。悪。亦。悪。の。報。あり。摠。太。終。小。付。これ。故。小。權。も。草。浅。船。を。苦。惜。と。宣。栗。津。六。郎。梅。雅。君。横。死。の。六。郎。一。身。小。保。れ。後。の。忠。義。を。存。命。胸。察。悔。歎。申。理。

まくまの舟のうへに。難波もゆつた都鳥の東の都鳥都のともりるの
 ーか。都の人のきこ。ひんりのねひく。河原小立在いり。船人
 ちんちん。舟のきこ。夫衆生のこの岸より。又菩提の彼岸より。煩惱使
 中流より。それ七弘誓の船に乗し。渡りしと宣ふ。船人の只今船出
 を棹をとめ。物ねり。上鴈の。一葉の舟の中。押あめ。乗あし。いと
 危し。危し。今この人を渡り。末く。自身より。をこ。とべ。志づ。く。初を
 め。つ。ら。の。ね。ま。の。と。れ。さ。げ。も。ゆ。つ。た。田。川。の。渡。ま。さ。く。あ。ら。う。日。の。暮。暮。め
 ちや。船。小。の。ね。ま。の。と。れ。さ。げ。も。ゆ。つ。た。田。川。の。渡。ま。さ。く。あ。ら。う。日。の。暮。暮。め
 を。ひ。ろ。く。と。め。と。味。な。く。と。ら。め。た。つ。た。は。進。め。つ。た。船。人。の。周。章。と。扶。乗
 一。既。小。中。流。小。到。と。た。向。の。出。崎。さ。る。柳。の。下。小。當。く。旗。小。鉦。鼓。念。仏。の。声
 され。ば。狂。女。耳。に。倒。く。あ。る。尊。も。ま。の。竹。の。供。粮。と。同。め。小。船。人。等。



斑女前
 柳の
 田川原小
 呻吟

墨田川
の渡守大念
の供養の縁故
を証中の狂
小物



海舟

七

舟



彼法事小つらういひつと哀れなる物なりあり。さゆ。一晩の目。京家の美少年。
 陸奥へつらうとて。浅草野路まゝ。末あひしを物たり。人肉経紀かたり
 まゝも向の岸辺なる。隠家小伴ひ。まほふのがい。隨ちうねと怒りて
 まぎく打擲し。終小步殺し。うりごも。そのお。七。洛の親族。両三人。索来て
 多比小仇を執る。遺言小まうせ。彼の柳の小小葬。し。小因ある。行脚の
 聖ひのひ。く。叮嚀。小回向し。又そのよ。う。大念仏。供養し。あひうり。さう
 うら長物。うり。小。か。船。著う。い。誘う。あがり。あ。とい。小。狂女の。熱う。ら。さ
 決さ。う。し。小。船。人。その。少年の。名。梅。推。丸。父。の。吉。田。の。何。某。又。索。来。り
 親族の中。小。兄の。松。推。とい。か。人の。あり。とい。い。せ。え。ま。わ。と。向。あ。い。船。人。點。頭。う
 なら。り。た。い。ち。う。り。ゆ。ら。ね。ど。う。う。人。あ。て。も。あ。る。べ。し。と。答。れ。の。狂。女。う。ら。ら。泣。き。と
 い。こ。う。子。の。梅。種。ま。り。兄。ま。い。今。般。小。あ。ひ。ん。を。ち。ど。と。母。ま。息。の。内。小。見。え。う

歎きをまゝ。い。ぬ。あ。今。の。う。う。く。あ。い。ま。も。片。田。舎。の。ま。こ。う。う。く。無。常。の。風。小。戦。ぐ。な
 り。王。緒。柳。拔。捨。く。う。れ。骸。う。り。と。も。え。ま。は。し。さ。う。く。さ。ひ。の。八。千。こ。ひ。百。千。こ。ひ。が。死
 口。説。く。歎。め。の。と。哀。れ。と。同。う。と。乘。合。せ。し。掖。曳。祝。木。匠。農。夫。野。客。等。群
 多。く。斑。女。前。さ。う。い。い。廻。と。岸。小。打。揚。ん。と。閻。々。派。船。人。遠。く。押。備。ら。る。小
 ま。う。く。と。い。つ。せ。も。あ。つ。ど。衆。皆。く。く。と。う。ら。笑。ひ。が。併。を。行。人。と。う。う。赤。石。判
 官。盛。景。ね。の。仰。を。禀。か。く。と。い。い。小。步。拾。く。斑。女。松。推。梅。推。を。索。め。る。同
 謀。者。あり。さ。う。く。い。ぶ。も。今。の。回。答。を。以。て。松。推。は。の。こ。う。り。小。僧。居。る。と。猜。し
 又。この。物。犯。ひ。を。斑。女。前。う。り。と。知。り。く。ま。づ。これ。を。生。拘。ま。す。と。松。推。を。搦。捕。ん
 と。欲。す。妨。り。を。し。り。だ。り。し。小。僧。人。駭。れ。る。氣。さ。ま。あ。く。と。い。い。一。人。も。怒。り。か。り。
 覺。期。ま。う。と。會。て。械。振。揚。て。一。人。が。眉。間。を。破。と。お。碎。け。残。り。の。と。も。大。小。怒。り。刀
 成。抜。つ。と。う。前。後。左。右。より。切。り。懸。り。を。船。人。の。お。も。と。と。打。倒。突。落。し。腰。を

折り胸を壁に因り上らんともはの拂除押沈めちとさる後小折つるのち
 船小驚き逃んとさるりの水小溺と一人も残らどみりける。その時船人
 へ賊を夏利と投捨斑女前を岸小扶のち一々芝生小居さう。さやる。
 後室小ハのすべ知百さるべ。僕ハ昔再生の恩を蒙り。鳴崎が兄小赤塚
 の軍介とやひりのく松稚君ハ仲圓阿闍梨粟津六郎ホこと小大念仏の
 假屋小あり。只後室のハ往方のも心苦くさひぬ。さあめひご
 り。その渡へ来あふりのやとあひさう。僕湖水のほとり小人とさう。初
 上ののみま。さうとひ。さう。求くこの河の渡守小らう。彼此人をさう。
 外さう。見り。心を盡めさう。小端さう。環會さう。のさう。盛
 累が同謀の奴がを打殺。さう。持さう。誘め。負さう。さう。とさう。
 うさう。処小松稚丸仲圓阿闍梨粟津六郎。鳴崎。浅船ホ。さう。さう。

仮よりと走り来。軍介がことよち。働を稱。諸共。斑女前を扶掖。
 假屋のかくまり。処小入。さう。さう。さう。小勅。さう。只惘然とさう。さう。
 一。松稚丸二面の明鏡をとり出。夫鏡ハ靈明。さう。さう。善悪をさう。さう。
 くこれを智の冥明小象さう。又その影を月小取。水徳を備。さう。さう。
 世倍鏡と婦人の神と稱。さう。さう。母鳥越の曠野。さう。さう。宝鏡二面を遺
 一。さう。さう。その智裏暗。さう。さう。乱とぬ。さう。とく醒。さう。と
 宣ひ。彼鏡を指。さう。斑女前。豁然と。持清。さう。さう。身の不覺
 さう。怪。松稚梅稚阿闍梨。軍介夫婦。浅船ホ。一件の。さう。さう。或。さう。
 一。或。さう。さう。さう。さう。面をあり。さう。さう。只梅稚の。さう。人の數小
 入り。さう。悲。さう。さう。平尾の。光政夫婦。忠義小救。さう。脱
 せ。脱。さう。さう。末。さう。さう。終。小威。さう。さう。燈の光を増。さう。さう。と



軍の勇とて
 盛名が同傑者
 を打殺せ
 松雅九仲圓
 阿南梨ハ勝
 久保草小と
 かく取世前
 を迎あ

本村新書卷之五

声こゝろ限り不た泣なぬく。仲ちゆう圓えん河か南なん梨り宜いみやう。佛ぶつのの濕しつ鼓このの山さん小せう入り。凡ぼん夫ぶのの生せい死じの
 海うみ小せう沈しんむす後ごとと先せんぞと世よののちちももひひさされれのの死しとと生せいととのの誰たれのの命いのち小せう限りるる
 死しのの縁えんとと生せいをを去さり。東あづまのの果はるる土つちととちちもも。さされれ過すく世せのの因いん之の果はるる
 逆さか縁えんちちりりとともものの子このの小せう歎なげけけととちちもも一いつ遍へんのの回まわりりああるるははとと諫いさめめのの
 斑いん女にょ前まへののちちももくく塚つちかののほほととりり小せう歩ふととちちもも。堂どうのの成なりららああるる。南なん無む西せい方ほう極ごく
 樂らく世せ界かい三さん十じゅう六りく万まん億いっ同どう号ごう同どう名な阿あ弥い陀た佛ぶつ。子このの成なり海うみひひああるる。南なん無む阿あ弥い陀た
 佛ぶつとと唱となへへ。群ぐん衆しゆのの老らう弱じやく異い口く同どう音おん小せうととちちもも。仏ぶつ名な成なり唱となりり。

墨田川梅柳新書卷之五 畢

古今通

